

平成30年度第1回香川公民館運営審議会における諮問に関する主な意見

○（公民館と子どもについての問題点）

- ・子どもは公民館の存在は知っているけど、なにをやっているかは知らない
- ・いろんな世代から教育を受けることが少なくなっている
- ・中高生はダンス等を行っているが、発表する場所が少ない

○（子どもの居場所のために公民館が行うべき方向性）

- ・公民館にはすでに子どもが集まっているので、そこにいろいろなことを仕掛けていく
- ・参加するだけでなく、協働でなにかをつくりあげていく
- ・ゲームをしている子どもにも、こんな遊びがあるよと教えてあげれば、ゲームだけじゃない面白さに気づく
- ・いろんな世代から教育を受ける機会をつくる
- ・いろんな世代がコミュニケーションをとる
- ・中高生が子どもに教える
- ・子どもと大人のコミュニケーションは、なにもないと話しかけづらいので、事業として積極的に交流できる場をつくる

○（公民館で行った方がよい具体的な事業）

- ・子どものうちから公民館について教える
- ・空いている教室を卓球や勉強をする部屋として開放する
- ・寺子屋開きたいなという人たちのための講座。公民館で学んで地域に還元していく。
- ・月1回ダンスとか将棋ができる日を解放
- ・宿題をやれる
- ・中高生の発表する場所
- ・放課後集まって勉強するスペース

⇒第2回香川公民館運営審議会における議論の内容

これらを踏まえて、

- ①子どものニーズとその親のニーズは具体的にはなにか、どういう調査をすればよいか
子どもに聞きたいこと
子どもの親に聞きたいこと
- ②「利用懇だより（平成29年度）」子育て世代のつぶやきから読み取れることはなにか